

2022 年度数理情報履修モデル

自己点検・評価報告書

1. 昨年度の自己点検結果を踏まえた今年度の取り組み

今年度は2021年度に引き続き、共通必修科目「数理情報概論」の内容を見直し、基礎的な項目に関する解説を更に手厚くすることにより全体の水準を見直し、シラバスを修正した。

前年度（2021年度）の学生アンケートでは「授業で新しい知識や考え方を得ることができた」との回答が全体の96.8%を占めており、例年どおり、学生自身も学習成果があったことを実感していることが分かった。授業の満足度については5段階評価（満足・やや満足・普通・やや不満・不満）のうち上位2つ（満足・やや満足）の占める割合が65.3%であった。上記のとおり基礎的な解説に重きを置くことにより、授業の進捗速度に関する不満を減らし、学生の満足度の更なる改善を目指す。

2. 教育プログラムの履修・修得状況、学習成果について

今年度（2022年度）の受講登録者数は994名で、単位修得者は888名であった。単位修得者の割合は89.3%であった。

3. 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度について

講義形式は、2021年度は対面と遠隔を交互に行っていたが、2022年度の後期には対面を主として実施した。授業後に実施したアンケートの集計結果（別紙）によると、「授業で新しい知識や考え方を得ることができた」との回答が92.9%を占めており、昨年度より4ポイント下がったものの2020年度と同定度であり、依然として高い割合を占めている。

授業の満足度については5段階評価（満足・やや満足・普通・やや不満・不満）のうち上位2つ（満足・やや満足）の占める割合は63.5%であった。2020年度の満足度55.1%よりは改善しているものの、2021年度の65.3%と比べると微減した。授業に関する不満な点としては相変わらず授業内容の水準を挙げた学生が多く、ネガティブな回答（どちらかと言えばいいえ・いいえ）の占める割合が29.3%であった。2021年度と同定度の割合であり、授業内容の見直しにもかかわらず、授業内容の水準を高めすぎると感じた学生はそれほど減らなかった。授業内容の水準と総量については更なる検討を継続する。

4. 改善への取組

2023年度には次の事柄に取り組む。

- ✓ 実社会とデータ駆動型で構築するAIとの関わりを解説し、自分ごととして数理情報概論の内容を考えさせる機会を増やす（継続）。
- ✓ 生成系AIを含めて新しい話題も盛り込むことを検討する。

5. 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

数理情報概論は必修科目であり、本学を卒業する学生は例外なく全員が本科目の単位を修得する。個々の学生がデータサイエンス分野に、より強く積極的な関心を持てるように、学生アンケートなどを通じて自己点検を今後も行い、授業内容の改善を継続する。